

開催期間:

2012/9/22

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

12members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

廃品打楽器協会
演劇プロデュース団体
大学生 16名
後援 豊田市、豊田市教育委員会
協賛 緑化推進団体、環境省、公共交通機関運営企業

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:

13000 US dollar

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

None

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

豊田市に住み暮らす人々42万人。

特に小さな子供を持つ家族。

主語を忘れないように「我々 JCI〇〇は、」「我々委員会は、」です。

目的:

- 豊田市に住む人々が誇れる環境都市を創造するため。
- 1)市民の環境意識の向上と環境に配慮した行動を促進する。
 - 2)環境活動を家族で継続した行動にする。
 - 3)市民に環境都市づくりをしているという自覚を広げる。
- 上記を目的とする。

3行程度 400字以内

【背景】我々の委員会で行った環境意識調査や豊田市の市民意識調査において、積極的に環境に配慮した行動をしている豊田市民はまだまだ少ないという事が分かりました。

この豊田市に暮らす市民一人ひとりが、環境に対する意識の更なる向上と、積極的に環境に配慮した行動をしていく事が不可欠。

市民一人ひとりが普段の生活の中でも積極的に行動し環境に配慮したライフスタイルへ転換する必要があります。

我々のムーブメントが市民の環境意識の向上と環境に配慮した行動を促し、市民一人ひとりが環境に良い魅力あるまちづくりを行います。

最初に目的、後半に背景説明を簡単に書いて下さい。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

概要:

環境に配慮した行動は、日々の生活の中で地道にしていかなければならないが、
楽しくなければ継続していくのは難しい。
そこで、なぜ環境に配慮しなければならないのか、環境に配慮した生活はどのようなものかを楽しく分かり易く伝え、親子で一緒に環境について学びます。
そして、環境に配慮した行動を、自分達のライフスタイルに取り入れ実践していきます。
親子で一緒に参加することで、親と子の環境に対する意識を共有し、
かつ継続的に環境に配慮した行動をとることができます。

全部で 400字以上

主語を忘れないこと、単語は 7つ以下で 1文とすること

結果：

参加者のアンケートより、
参加した親子で環境への意識を共有した。
彼らが環境に配慮した行動への転換と実践する必要性を理解できたことが判明。
家庭においては、子どもと一緒に話しながら分別するようになった。
参加者の日常の生活の中に生かされている。
また行政の環境活動がポイントとなる施策を発展利用。
そのポイントを参加費とし現金に転換できる仕組みを構築・実践し継続可能な状態にした。これにより、今まで行政の施策を知らなかった市民も実際に利用してみたという回答を得た。
この施策は環境都市づくりの一環。
市民は環境活動を行いながら環境都市づくりを意識させることができた。

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

行動:

2011年 11月 豊田市へのヒアリング
2012年 4月～2012年 8月 事業企画・立案
2012年 8月 事業対象者へのチラシによる参加募集
2012年 9月22日 事業開催(参加者 子ども271名、大人200名)
2012年 9月 事業開催後のアンケート、ヒアリング実施
2012年 10月 豊田市役所への事業報告
2012年 10月 講師、協力者へのヒアリング
2012年 10月 市民活動団体へ仕組みを発信

全部で200字以上
2000字以内程度

考察や推奨

事業後の参加者へのアンケートより。
家族参加としたことで小さな子どもにも、
大人と一緒に楽しく学び体験する場とすることができた。
家族で共通した意識を持つことができたという意見が多くあった。
事業後には親子で楽しくごみの分別をしたり、
豊田市の環境にも興味を落ち施策を活用した方も多くいた。

	<p>豊田市がはじめた環境活動がポイントになるシステムを活用した。 市民のためのポイントを参加費としていただいた。 豊田市内になかなか流通せずにいた施策を発展利用することで、 いただいたポイントを現金に換金した。 市民の環境活動により貯められたポイントを現金化し、 事業費の一部とすることで運動の質を上げることができる。 この運動がまちづくりに繋がりそれを支えているのは市民の環境活動である。 この仕組みを他団体や企業が使用できるようにすることができた。</p>

全部で200字以上	
	<p>豊田市役所から、JCI 豊田を大変頼りにしており、今後も一緒に取り組んでいきたいと高い評価を得た。 「豊田市役所では、ホームページと広報紙しか市民に発信する方法がない。 そのため、しっかりと企画され人を集めることができる JCI での例会や事業で、 行政の施策を取り入れてもらうことはとても有効。」 「事業名も分かりやすく、市民により溶け込みやすいので継続してほしい」との意見を得た。 協賛企業からは、自社の取り組みを広く知っていただく良い機会となったとの感想を得た。今後に繋がるより良いパートナーシップを築くことができた。 また 趣旨が分かりやすく、大人も子供もとても楽しそうで来年も開催してほしい、高い評価をいただいた。</p>
	地元紙 1 回掲載 配布世帯 10 万 5 千 5 百 5 十部